

従事者への効果として、①病院や部署のビジョンやミッションと同一線上に手指衛生があることを再認識できる、②可能な限り感染伝播防止に努め、安全性を確保しながら医療行為を行うことの重要性を確認できる、③手指衛生行動を継続する上での精神的支柱を得ることができる、などが考えられた (図 10)。

5) 感染症伝播のエビデンス創出に応用可能な病原体ゲノム解析のための研究

医療機関における感染症伝播機構の解明には、分子疫学的アプローチによる病原体ゲノム解析の果たす役割は大きい。また、手指衛生行動の遵守率向上・定着化を目的とする対策を確立する上でも有用な情報を提供し得ると考えられる。

これまでに、成育医療の分野で感染症伝播の原因となり得る病原体として RSV や各種ヘルペスウイルスについてヒト細胞を用いた実験的感染系を確立するとともに、ウイルス感染細胞および cell-free の培養上清よりウイルス核酸を PCR 法により増幅・検出する実験系を確立した。今後の課題として、行動分析や伝播防止策の確立をサポートできるエビデンスを創出できるよう、より迅速性・汎用性に優れた解析系の確立を目指す必要があると考えられた。

D. 考察

行動分析的視点に基づいて手指衛生行動を多角的に分析することによって、手指衛生行動が「繰り返す」ことが困難な特徴を備えているため、手指衛生行動を繰り返しやすい行動にするためにはさまざまな工夫が必要である、ということを再認識する

ことにつながると考えられた。

また、手指衛生行動に関連する「好子」「嫌子」「ライバル行動」などの因子については、部署ごとに独自の因子が存在する可能性がある。このことから、「好子」「嫌子」「ライバル行動」などの解析は、部署ごとの対策を確立する上で有用な情報を提供し得ると考えられた。

さらに、手指衛生行動に対する動機づけや価値観の共有化は、医療従事者の手指衛生行動に影響を及ぼす可能性が高いと考えられることから、医療従事者の意識面へのアプローチについても十分配慮することが、手指衛生行動の効果を高める上でも重要と考えられた (図 11)。

E. 結論

医療従事者の手指衛生行動の解析における行動分析学の適用は、手指衛生に関する「行動」および「意識」の両面からの理解を深め、適切な対応策を確立する上で有効な手法の一つとなり得ると考えられた。

(参考図書)

- ・「院内感染防止手順—すぐ実践できる—第2版」倉辻忠俊・吉倉 廣・宮崎義久・切替照雄・山西文子・平出朝子編集 (メヂカルフレンド社)
- ・「医療現場における手指衛生のための CDC ガイドライン」大久保 憲・小林寛伊監訳 (メディカ出版)
- ・「行動分析学入門」杉山尚子、島宗 理、佐藤方哉、リチャード・W・マロット、マリア・E・マロット著 (産業図書)
- ・「行動分析学入門—ヒトの行動の思いがけない理由」杉山尚子著 (集英社新書)

- ・「パフォーマンス・マネジメントー問題解決のための行動分析学ー」島宗 理著（米田出版）
- ・「「続ける」技術」石田 淳著（フォレスト出版）
- ・「短期間で組織が変わる行動科学マネジメント」石田 淳著（ダイヤモンド社）
- ・「変革を定着させる行動原理のマネジメント」中島克也著（ダイヤモンド社）
- ・「隔離予防策のための CDC ガイドライン医療環境における感染性病原体の伝播予防2007」満田年宏 訳・著（ヴァンメディカル）

F. 研究発表

1. 論文発表

Inomata H , Takei M, Nakamura H, Fujiwara S, Shiraiwa H, Kitamura N, Hirohata S, Masuda H, Takeuchi J, Sawada S. Epstein-Barr-virus-infected CD15(LewisX)-positive Hodgkin-lymphoma-like B cells in patients with rheumatoid arthritis. Open Rheumatol J. 2009 Sep 7;3:41-47.

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

図 1

手指衛生行動を妨げる要因 ～手指衛生直後には「好子」よりも「嫌子」が発生しやすい～

好子: 行動を強化する“何か良いこと”

目視できる汚れが取り除ける

嫌子: 行動を弱化する“何か悪いこと”

次の仕事にすぐに取り掛かれない
手を乾燥させるのに時間をとられる
手が荒れる

図 2

行動を繰り返すかどうかは 行動直後の状況変化によって決まる

ある行動を繰り返すためには

繰り返したくなるような
状況変化(好子)を生み出す

繰り返したくなくなるような
状況変化(嫌子)を排除する

図 3

手指衛生行動を妨げる様々な要因

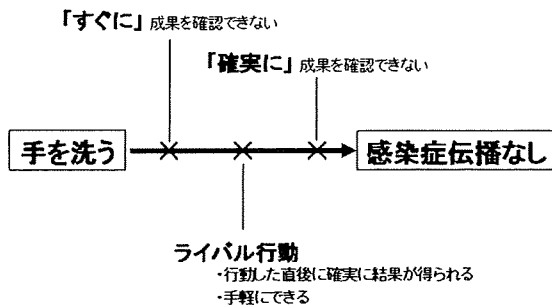


図 4

手洗い定着化に向けた対策案 ～行動分析的視点～

1. 手洗いの確率が上がるための刺激やルール作り(ライバル行動対策)
 - ・手洗い優先の宣言
 - ・手洗い場に時計の設置
 - ・スタッフ同士による指摘
2. 手洗いのハードルを低くする(ライバル行動対策)
 - ・手洗い場までの通路の整理整頓
 - ・手洗い場までの距離の短縮化
 - ・アルコール製剤へのアクセスの改善(設置場所、設置数など)
3. 嫌子を減らす
 - (例) 手荒れ防止
 - ・肌触りの良いペーパータオル
 - ・複数回の手洗い薬剤の提供
 - ・皮膚科早期受診の推奨
 - ・手が荒れにくいアルコール製剤の選択
4. 新たな好子を提供する
 - ・「ありがとう」ポスター
 - ・手洗い時の音楽

図 5

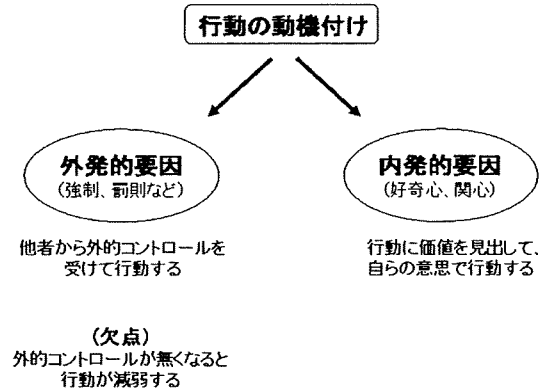


図 6

「内発的要因」による手指衛生行動の動機付け

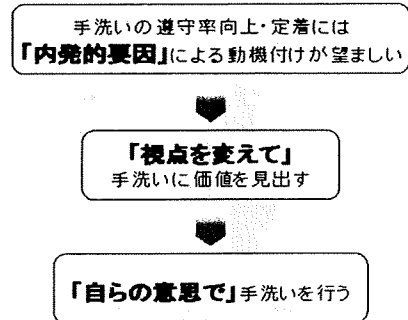
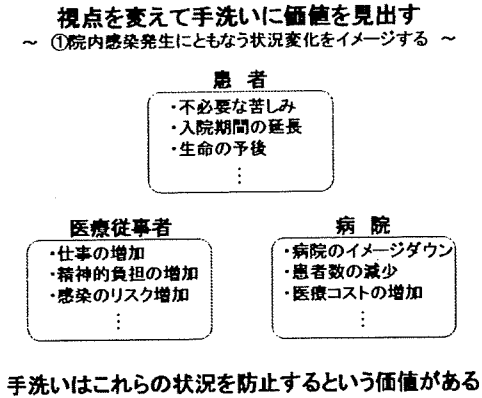


図 7



手洗い行動と価値観をサポートする肯定的なメッセージ
 ~ほめる・感謝する~

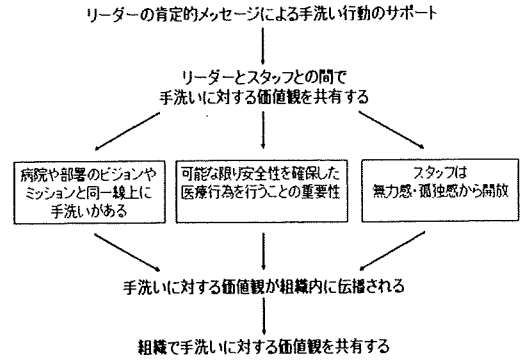
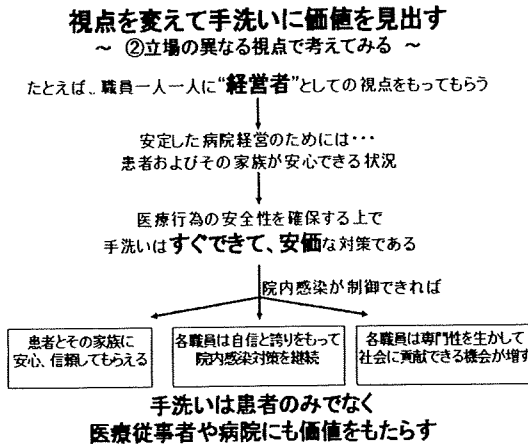


図 1 1

図 8



手指衛生行動の定着に向けたアプローチ

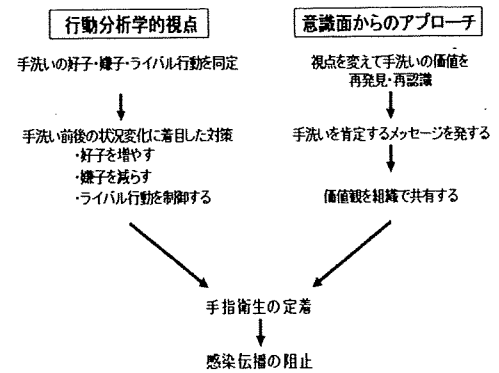


図 9

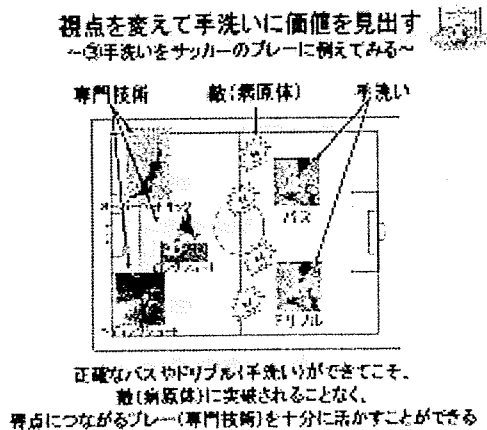


図 1 0

「病院施設の規模別の感染対策の実態調査」

分担研究者 西岡 みどり 国立看護大学校 教授

本研究の目的は、中小病院の感染管理活動推進に資することであり、3年間の主な研究成果は(1) 医療関連感染サーベイランス実施状況に関する全国調査報告書を作成し、(2) 日本の病院における感染管理活動に関する概算人件費を施設規模別に概算し、(3) 中小病院向けに6種類のサーベイランス手順書案を作成したことである。

初年度に行った文献レビューでは、一般に推奨されている4種類のサーベイランスが中小病院には不向きである可能性が示唆された。2年目に取り纏めた「施設規模・資源別サーベイランス実態調査報告書」の結果からはサーベイランスに必要な資源および実施状況の詳細とともに、中小病院でも大病院と同等の人件費が感染管理活動に投じられていることが明らかになり、中小病院の感染管理活動支援のために診療報酬上の措置が必要と考えられた。調査結果より、中小病院に適したサーベイランスとして6種類を特定し、埼玉県感染管理者ネットワークの意見収集結果を踏まえて手順書案を作成した。

最終年度は改訂を重ねた『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）改訂4版』について、感染管理に従事する医療職を対象に意見収集を行い実用性とニーズを評価した。その結果、手順書案は概ね「使用可能」であり、6種類の中では「手指衛生サーベイランス手順書案」のニーズが最も高いと考えられた。

研究協力者

森那美子 国立看護大学校 講師
坂木晴世 国立病院機構西埼玉中央病院 感染管理専門看護師/感染管理認定看護師
藤田烈 国立病院機構名古屋医療センター 感染管理認定看護師
沼直美 国立国際医療研究センター 看護師長/感染管理認定看護師
平松玉江 国立がんセンター中央病院 副看護師長/感染管理認定看護師
森兼啓太 山形大学医学部附属病院検査部 副部長/准教授 感染制御部 副部長

ランス、すなわち中心静脈ライン関連血流感染、尿道カテーテル関連尿路感染、人工呼吸器関連肺炎、手術部位感染のサーベイランス実施が推奨されている。しかし、この4種類は侵襲的処置に関連しており、中小病院での実践には必ずしも適さない。

そこで、本研究では中小病院の感染管理活動推進に資するために、実践可能なサーベイランスの種類を特定して手順を構築することを目指した。

初年度は、国内文献のレビューを行い、病床規模、施設特性、実践されている医療関連サーベイランスの種類などの情報を検討した。

図1に示すように全国の8割以上を占める300床未満の施設の発表論文件数が少ないことが明らかになった。またサーベイランスは

A. 研究目的

医療関連感染サーベイランスの実施は、病床規模に関係なく4種類の対象限定サーベイ

侵襲的処置に関連した4種類以外にも多様な種類が実践されていることが示唆された。

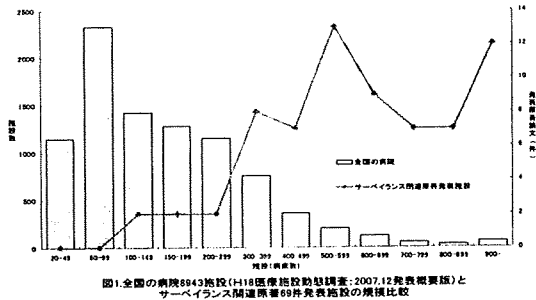


図1. 全国の病院6943施設(H18医療施設動態調査:2007.12発表概要版)とサーベイランス関連原著89件発表施設の規模比較

2年目は、全国の病院から無作為抽出した1000施設を対象に質問紙調査実施し、各種サーベイランス実施状況および必要な資源、概算人件費などを300床未満の中小病院とそれ以上の大病院とで比較した。感染管理活動の月間概算人件費は100患者日あたりでは規模による差はなく1,280円であった。また、図2に示すように多様な種類のサーベイランスが実施されていた。

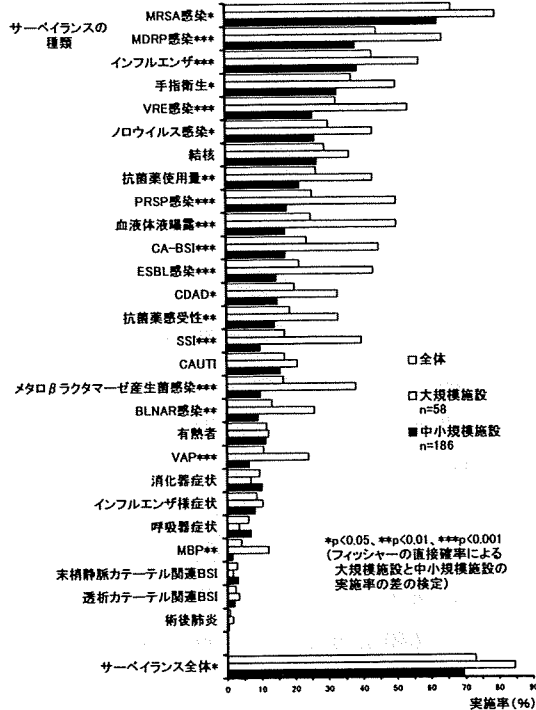


図2. 各種サーベイランス実施率の施設規模別比較

調査結果を基に次の6種類、すなわち「手指衛生サーベイランス」「消化器症候群サーベイランス」「呼吸器症候群サーベイランス」「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌サーベイランス」「多剤耐性緑膿菌サーベイランス」「尿

道カテーテル関連尿路感染サーベイランス」を、中小規模施設での実践に適した種類として選定した。

研究グループで、この6種類について手順書案を試作し、持込/院内発生との区別、持続/新規発生との区別、感染判定基準、報告頻度、簡略化の度合いなどについて検討した。さらに埼玉県感染管理者のネットワークで意見収集を行い、16施設の意見を集約し改訂した。

以上の経過を踏まえ、最終年度は試作したサーベイランス手順書案を改訂するとともに、同手順書案の実用性とニーズを明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. 「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)」の作成および改訂

6種類の中小病院向けサーベイランス手順書案を作成し、研究グループで検討し改訂を重ねた。

2. 「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)」改訂4版への意見収集

平成21年7月～9月に実施された複数の研修会において、感染管理に従事する医療従事者である受講者を対象に『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)改訂4版』に関する意見収集を実施した。

(倫理面への配慮)

2年目に実施した「施設規模・資源別サーベイランス実施状況調査」は国立国際医療センター倫理委員会の審査を受け承認を得た(受付番号507、2008.2.14承認)。最終年度の「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)」改訂4版への意見収集では、回答の任意性を保証し、個人が特定されない配慮と個人情報の保護に留意した。

C. 研究結果

1. 「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)」の改訂

「手指衛生サーベイランス（手指衛生）」
 「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌サーベイランス（MRSA）」
 「多剤耐性緑膿菌サーベイランス（MDRP）」
 「ノロウイルス感染&消化器症候群サーベイランス（ノロ）」
 「インフルエンザ&インフルエンザ様症状サーベイランス（インフル）」
 「尿道カテーテル関連尿路感染サーベイランス（CAUTI）」の6種類の手順書案について改訂を重ねて第4版を作成した。

各手順書案の構成は、図3に示すように、
 ①データ収集手順を示すフローチャート、②
 雛形となるような報告書例、③施設で改変で
 できるワークシート例からなる。

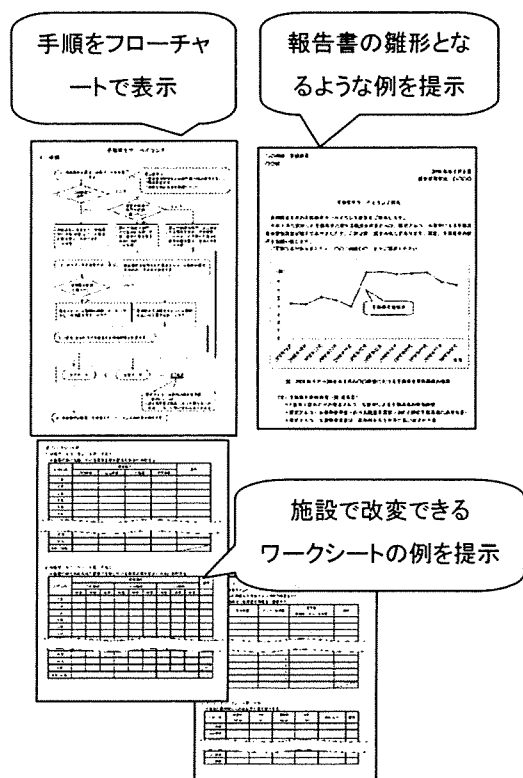


図3 「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書案4版」

2. 「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）」改訂4版への意見収集結果

404名の回答者は、看護師が92%と最も多く、ついで薬剤師5%、臨床検査技師2%であった。

各種サーベイランス手順書案が使えるか

どうかについての回答割合を図4に示す。いずれの種類も6-7割が「このままで『使用可能』」と回答した。

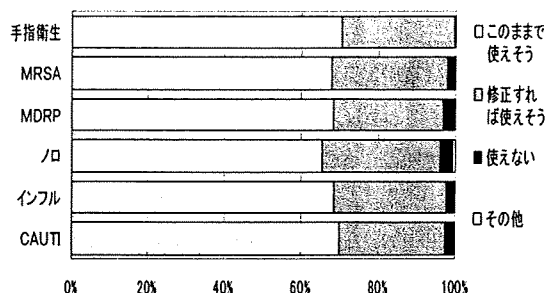


図4 手順書案は使えるか？(種類別 n=404)

各種サーベイランス手順書案を施設で「実際に使用してみたい」と回答した割合(%)を図5に示す。「実際に使用してみたい」と回答した割合は、病床規模による違いはほとんどなく、高い順に「手指衛生」72%、「インフルエンザ&インフルエンザ様症状」58%、「MRSA」54%、「ノロウイルス感染&消化器症候群」44%、「尿道カテーテル関連尿路感染」35%、「MDRP」24%であった。

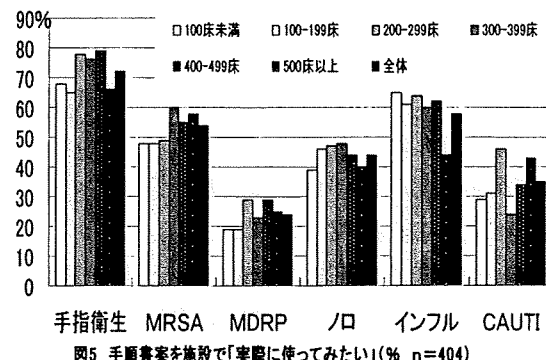


図5 手順書案を施設で「実際に使ってみよう」(% n=404)

自由回答には「精神科病院なので実施は難しい」「きちんと遂行するには200床あたり1人の専従者が必要と思う」「使ってみようがサーベイランスの知識があるスタッフがないので難しい」など臨床での実施の困難さに関する意見もあった。しかし、「早速使いたい」「『手術部位感染』の手順書案も欲しい」「ハードルが低くなりやってみようという気持ちになる」「サーベイランスが行いやすくなり良いことだと思う」「今の時代やるべき」「現在行っているがこういう手順書にそってやることでもっと効果的になると思う」「データ取得

の大切さと手順が比較的容易だとわかった」
「報告書の雛形が示されているのが大変ありがたい」など、実践の助けになることを示す意見が多かった。

D. 考察

結果より、『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）改訂4版』は、概ね「使用可能」であり、6種類の中では「手指衛生サーベイランス手順書案」のニーズが最も高いと考えられた。

中小病院でも実践可能なサーベイランス手順書の活用は、施設内の感染対策を評価しつつ改善をおこなうサーベイランスを施設規模に拘らず推進できるため、医療関連感染リスクの低減に寄与することが期待できる。

今後は、使用方法等について、各施設のサーベイランス担当者への研修なども必要と考えられる。

E. 結論

本研究では、中小病院に適した医療関連サーベイランスとして、文献レビューと全国調査結果を基にして6種類を選定し、簡便な手順書案を策定した。6種類のサーベイランス手順書案は、埼玉県の感染管理者のネットワークで意見収集を行い改訂した。

最終年度には手順書案の改訂と意見収集を行い、『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）改訂4版』は、概ね「使用可能」であり、6種類の中では「手指衛生サーベイランス手順書案」のニーズが最も高いことが示唆された。

今後は、同手順書案を用い中小病院でのサーベイランス普及のための広報、研修活動が必要と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

西岡みどり：日本と欧米での手術部位感染サーベイランス結果の違い. INFECTION CONTROL 8(1):50-53, 2009

西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太: 日本における医療関連感染サーベイランスと病院規模に関する文献検討. 国立看護大学校研究紀要 8(1):10-19, 2009

西岡みどり: 中小病院のサーベイランスはどうあるべきか. 感染と消毒 16(2):138-142, 2009

西岡みどり: 日米のSSI 国家サーベイランスとその現状. 感染対策ICTジャーナル 4(4):419-422, 2009

2. 学会発表

西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太: 日本の病院における感染管理活動に関する人的資源および概算人件費の施設規模比較. 第24回日本環境感染学会総会. 2009. 2. 27~28. 横浜.

西岡みどり: 中小病院におけるサーベイランス. シンポジウム 5. 中小病院での感染対策に何が必要か. 第24回日本環境感染学会総会. 2009. 2. 27~28. 横浜.

G. 知的所有権の取得状況 なし

(資料)

1. 西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太: 施設規模・資源別サーベイランス実施状況調査報告書2008年12月26日.

http://www.dcc.go.jp/nosocomial_infection/pdf/surveillance.pdf

2. 西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太: 中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）2009年7月10日改訂4版. <http://www.ncn.ac.jp/img/survey-all.pdf>

3. 西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太: 「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）」報告書 2010年3月1日.

Ⅲ 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

・雑誌

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sekiguchi, J., Asagi, T., Miyoshi-Akiyama, T., Kasai, A., Mizuguchi, Y., Araake, M., Fujino, T., Kikuchi, H., Sasaki, S., Watarai, H., Kojima, T., Miki, H., Kanemitsu, K., Kunishima, H., Kikuchi, Y., Kaku, M., Yoshikura, H., Kuratsuji, T., Kirikae, T.	Outbreaks of multi-drug resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> in community hospitals in Japan	<i>J. Clin. Microbiol.</i>	45	979-989	2007
Sekiguchi, J., Miyoshi-Akiyama, T., Augustynowicz-Kopec, E., Zwolska, Z., Kirikae, F., Toyota, E., Kobayashi, I., Morita, K., Kudo, K., Kato, S., Kuratsuji, T., Mori, T., Kirikae, T.	Detection of multi-drug resistance in <i>Mycobacterium tuberculosis</i> .	<i>J. Clin. Microbiol.</i>	45	179-192	2007
Sekiguchi, J., Nakamura, T., Miyoshi-Akiyama, T., Kirikae, F., Kobayashi, I., Augustynowicz-Kopec, E., Zwolska, Z., Morita, K., Suetake, T., Yoshida, H., Kato, S., Mori, T., Kirikae, T.	Development and evaluation of a line probe assay for rapid identification of <i>pncA</i> mutations in pyrazinamide-resistant <i>Mycobacterium tuberculosis</i> strains	<i>J. Clin. Microbiol.</i>	45	2802-2807	2007
Sekiguchi, J., Teruya, K., Horii, K., Kuroda, E., Konosaki, H., Mizuguchi, Y., Araake, M., Kawana, A., Yoshikura, H., Kuratsuji, T., Miyazaki, H., Kirikae, T.	Molecular epidemiology of outbreaks and containment of drug-resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> in a Tokyo hospital	<i>J. Infect. Chemother.</i>	13	418-422	2007
Kirikae, T., Mizuguchi, Y., Arakawa, Y.	Investigation of isolation rates of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> with and without multidrug resistance in medical facilities and clinical laboratories in Japan	<i>J. Antimicrob. Chemother.</i>	61	612-615	2008

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sekiguchi, J., Morita, K., Kitao, T., Watanabe, N., Okazaki, M., Miyoshi-Akiyama, T., Kanamori, M., Kirikae, T.	KHM-1, a novel plasmid-mediated metallo- β -lactamase from a <i>Citrobacter freundii</i> clinical isolate	<i>Antimicrob. Agents Chemother.</i>	52	4194-4197	2008
Kitao, T., Miyoshi-Akiyama, T., Kirikae, T.	AAC(6')-Iaf, a novel aminoglycoside 6'-N-acetyltransferase from multidrug-resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> clinical isolates	<i>Antimicrob. Agents Chemother.</i>	6	2327-2334	2009
Ando, H., Mitarai, S., Kondo, Y., Suetake, T., Sekiguchi, J., Kato, S., Mori, T., Kirikae, T.	Pyrazinamide resistance in multidrug-resistant <i>Mycobacterium tuberculosis</i> isolates in Japan	<i>Clin. Microbiol. Infect.</i>	54	1793-1799	2010

研究成果の刊行に関する一覧表

・雑誌, ほか

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大久保憲	手術室における感染防止対策	Clinical Engineering	18 (4)	353-357	2007
大久保憲	職業感染制御研究会の活動・取り組み	感染対策 ICT ジャーナル	2 (3)	319-322	2007
小林寛伊、 大久保憲	中小病院/有床診療所・無床診療所における感染対策の充実をはかるために	感染制御	3 (3)	211-218	2007
大久保憲	職業感染防止教育 安全器材の導入とトレーニング	HANDS-ON	2 (3)	49-52	2007
大久保憲	救急外来および ICU における手指衛生	救急医学	31 (10)	1118- 1122	2007
大久保憲	洗浄・消毒・滅菌に関する最新情報	INFECTION CONTROL	16 (5)	424-427	2007
大久保憲	医療法の改正－院内感染対策について－	感染と消毒	14 (2)	75-77	2007
大久保憲	在宅ケアで問題となる感染症の対策－5 類感染症の感染対策－	在宅ケアの感染対策と消毒	5 (4)	38-39	2007
大久保憲	手術部位感染症と抗菌薬予防投与－手術 環境と手術部位感染－	化学療法の領域	24 (1)	30-35	2008
大久保憲	CDC 隔離予防策ガイドライン	CARLISLE	12 (4)	1-7	2008
大久保憲	消毒の Do not－手指衛生と使用する水－	オペナーシング	23 (2)	161-164	2008
大久保憲	感染症診療 ABC－手指衛生の基本－	INFECTION FRONT	12	28-29	2008
大久保憲	医療関連感染防止への新しい展開－2007 年改訂 CDC 隔離予防策ガイドラインの勧告 事項について－ (1)	感染制御	4 (1)	5-10	2008
大久保憲	改正医療法で徹底される院内感染防止	月刊新医療	4	119-121	2008
大久保憲	医療関連感染防止への新しい展開－2007 年改訂 CDC 隔離予防策ガイドラインの勧告 事項について－ (2)	感染制御	4 (2)	109-114	2008
大久保憲	感染制御の新しい動き－洗浄、消毒、滅 菌を含めて－	医療関連感染 J Healthcare-associated infect	1 (1)	9-13	2008
大久保憲	消化器内視鏡の洗浄・消毒マルチソサエ ティーガイドライン	感染制御	4 (4)	336-340	2008
大久保憲	プリオン病予防のための手術器械の新しい滅菌法	整形・災害外科	51	1591- 1595	2008

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大久保憲	クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) プリオンの二次感染防止	INFECTION CONTROL	17 (12)	1198- 1201	2008
大久保憲	医療施設における洗浄と消毒の実情	感染と消毒	15 (2)	82-90	2008
大久保憲	手術医療の実践ガイドラインについて (その 1)	感染制御	4 (5)	407-412	2008
大久保憲	感染制御に関する最近の動き-CJD プリオンへの対応も含めて-	病院設備	51 (2)	141-143	2009
大久保憲	「手術医療の実践ガイドライン」にみる手術と感染制御	CARLISLE	14 (1)	1-3	2009
大久保憲	米国における感染防止に関する勧告-1	日本外科感染症学会誌	6 (1)	1-4	2009
Takashi Okubo, Hiroyosi kobayashi	Performance evaluation of masks for medical use -including the comparison with commercially available masks for general use-	J Healthcare-associated Infect	1 (2)	57-61	2008
大久保憲	手術医療の実践ガイドラインについて	感染と消毒	16 (1)	22-29	2009
大久保憲	手術医療の実践ガイドライン (後半)	感染制御	5 (1)	13-17	2009
大久保憲	手術室における消毒薬の適正使用	医機学	79 (3)	126-130	2009
吉田理香、大久保憲	医療環境清浄化のための清掃方法に関する研究	医学と薬学	61 (5)	693-703	2009
大久保憲	手術医療の実践ガイドラインにみる手術と感染制御	CARLISLE	14 (1)	1-3	2009
大久保憲	米国における感染防止に関する勧告-2 急性期病院における中心静脈ライン関連血流感染の予防戦略 (特別寄稿)	日本外科感染症学会雑誌	6 (3)	179-182	2009
大久保憲	わが国の ICT システム推進に向けての外科医の役割	日本外科感染症学会雑誌	6 (3)	201-202	2009
大久保憲	新型インフルエンザ第二波に備えた対策と危機管理手法	建築設備	50 (10)	21-25	2009
大久保憲	周術期感染の対策-手術部位感染 (SSI) 防止をめざして-	医学のあゆみ	231 (1)	29-34	2009
大久保憲	エビデンスベースの SSI 対策-この 10 年で日本の周術期管理はどう変わったか?	感染対策 ICT ジャーナル	4 (4)	351-355	2009

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
大久保憲	最新エビデンスを知る！「医療施設における消毒と滅菌のCDCガイドライン2008」抄訳・重要ポイント解説	インフェクションコントロール 2009年秋季増刊	196号	239-264	2009
大久保憲	マスク/レスピレータの着用で感染防御は可能か	INFECTION CONTROL	18 (11)	1191- 1192	2009

・書籍, ほか

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
大久保憲 ほか	病院環境整備	全国ビルメンテナン協会編	病院清掃の基本と実務		東京	2007	23-27
大久保憲	病院感染対策	後藤元 監修	2007年改訂版最新感染症治療指針	医薬ジャーナル社	東京	2007	56-67
大久保憲	隔離予防策のためのCDCガイドライン解説とガイドラインの勧告事項		消毒薬のハンドブック	メディカルドゥ社		2007	6-36
大久保憲	医療現場における手指衛生のためのCDCガイドライン解説とガイドラインの勧告事項		消毒薬のハンドブック	メディカルドゥ社		2007	37-47
大久保憲	感染予防策		薬剤師のための感染制御標準テキスト	じほう		2008	113- 122
大久保憲	ファシリティーマネジメント		薬剤師のための感染制御標準テキスト	じほう		2008	169- 180
大久保憲	エビデンスに基づいた感染対策	日本病院薬剤師会監修	薬剤師のための感染制御マニュアル 第2版	薬事日報社	東京	2008	15-23
大久保憲	病院感染対策		最新・感染症治療指針	医薬ジャーナル社		2008	62-73
大久保憲	医療現場の滅菌包装		医療現場の滅菌	へるす出版		2008	142- 164

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
大久保憲	第7章 感染対策		医療機器安全管理責任者・医療機器情報担当者のための MDIV 標準テキスト、臨床医学・医療機器工学			2008; 初版	110- 119
大久保憲	第8章 洗浄・消毒・滅菌		医療機器安全管理責任者・医療機器情報担当者のための MDIV 標準テキスト、臨床医学・医療機器工学			2008; 初版	120- 122
大久保憲	院内感染対策		看護のための最新医学講座第2版微生物と感染症	中山書店	東京	2009	346- 365
大久保憲	プリオン滅菌の現実的方法論の検討	主任研究者北本哲之	平成20年度厚生労働科学研究費補助金による難治性疾患克服研究事業、プリオン病2次感染に対する現実的滅菌法の開発研究			平成 21年 3月	
大久保憲	手術室での感染防止	中田精三編著	手術室看護の知識と実際	メディカ出版	東京	2009	66-87
大久保憲	病院感染対策		最新・感染症治療指針	医薬ジャーナル社		2009	52-63

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
河野文夫	院内感染症	河原和夫 岸本忠三 岩本愛吉	新訂 感染症と生体 防御	放送大学 教材	東京	2008	181-196
河野文夫	輸血などの生物由来製品に伴う感染症	河原和夫 岸本忠三 岩本愛吉	新訂 感染症と生体 防御	放送大学 教材	東京	2008	197-214

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Haru Kato, Hideaki Kato, Yoichiro Ito, Takayuki Akahane, Sayuri Izumida, Toshiyuki Yokoyama, Chiharu Kaji, and Yoshichika Arakawa 加藤はる	Typing of <i>Clostridium difficile</i> isolates endemic in Japan by sequencing <i>slpA</i> and application to direct typing	J. Med. Microbiol.		In perss	2010
	<i>Clostridium difficile</i> 感染症について	日本病院薬剤師会雑誌	45	897-902	2009

資料

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
加藤はる	クロストリジウム・ディフィシル感染症と感染対策	HosCom	6(1)	1-5	2009

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Inomata H, Takei M, Nakamura H, Fujiwara S, Shiraiwa H, Kitamura N, Hirohata S, Masuda H, Takeuchi J, Sawada S.	Epstein-Barr-virus-infected CD15 (Lewis X)-positive Hodgkin-lymphoma-like B cells in patients with rheumatoid arthritis.	Open Rheumatol J	3	41-47	2009

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太	施設規模・資源別サーベイランス実施状況調査報告書 2008年12月26日	http://www.dcc.go.jp/nosocomial_infection/pdf/surveillance.pdf			2009
西岡みどり	日本と欧米での手術部位感染サーベイランス結果の違い	INFECTION CONTROL	8(1)	50-53	2009
西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太	日本における医療関連感染サーベイランスと病院規模に関する文献検討	国立看護大学校研究紀要	8(1)	10-19	2009
西岡みどり	中小病院のサーベイランスはどうあるべきか	感染と消毒	16(2)	138-142	2009
西岡みどり	日米のSSI国家サーベイランスとその現状	感染対策ICTジャーナル	4(4)	419-422	2009
西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太	中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案) 2009年7月10日改訂4版	http://www.ncn.ac.jp/img/survey-all.pdf			2009
西岡みどり, 森那美子, 坂木晴世, 藤田烈, 沼直美, 平松玉江, 森兼啓太	「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案)」 報告書 2010年3月1日				2010

IV 研究成果の刊行物・別刷・資料